

平成20年度 倉敷中央病院 ジュニアレジデント公募試験 小論文

平成19年8月19日実施

注意事項：配布されたら以下の注意事項をまず確認すること。

試験官の指示があるまで、問題文を先に読んではならない。

まず、自分の受験番号と希望コース、氏名を以下の記入欄と解答用紙に記入すること。

時間は70分である。問題用紙は表紙も含め3枚、解答用紙は1枚である。試験開始の時点で落丁などがないか確認すること。

問題は1問である。文章を読み2つの設問に答えること。

解答用紙とともに、問題用紙も回収する。

受験番号 _____ コース（内科総合・内科選択・外科系・産婦人科）

氏名 _____

問題：以下の文章は、手術不能の肺癌と診断された41才の医師の書いたものです。この文章を読み、設問に答えなさい。

これまで癌の告知というと、本人の死に対する恐怖を第一に考えていました。ところが、自分が癌になってみると、意外と死に対する恐怖は感じませんでした。病状がさらに悪化してくると変わるのかもしれませんが、今までのところはほとんど感じません。泣きたくなるのは、親しい人たちとの別れを思うときです。

私は非小細胞肺癌の多発脊椎転移ですから、現在の医学で治癒させるのは不可能です。もし、発病が十年遅く子供達が高校を卒業していれば、体調のよい今の時期に退院して、夫婦で過ごす時間を優先したかもしれません。

私が入院して化学療法を受けている理由はいろいろあります。

- 化学療法により長期生存例も皆無ではない。
- 最新の化学療法を受けることで医学界に恩返しできる。
- 入院治療を受けて生きていけば傷病手当金や入院保険金などの収入がある。

このうち最も大きな理由は収入です。一家の働き手として、最も大きな関心事は家計です。遺される家族が最も心配なのです。

これまで受け持ってきた末期癌の患者さんを思い返してみますと、私と同じような思いだったのかなという方があり、いずれも一家の働き手でした。

私の叔母は、通っていた大病院の外来で「癌が再発して治療不能です。今後はこの病院に来る必要はありません。どこか近くの病院で診てもらってはどうか」と告げられ、途方にくれました。

どんどん新たな患者が紹介されてきて、末期癌患者を診る余裕がないことは分かっています。しかし、告知後のケア体制が全くできてない状態で100%告知を進めれば、患者・家族そして一般病院医師に多大な迷惑をかけていることも事実です。

次に具体例を二つ挙げます。

高齢の女性が腹部精査で入院してきました。

精査入院ですから、病名はまだ分かりません。

主治医となった若い医師は、入院計画書の病名に「癌の疑いで精査」と書いて本人に渡しました。

初対面のその高齢女性が、癌の疑いありと書かれてどんな気持ちになるのか、全く配慮できていません。

今回はじめに入院したのが外科病棟だったので、ラパ胆（注：腹腔鏡下胆嚢摘出術のこと）の患者さんが同室に入院してきました。これまで全く病気など知らない方で、もちろん入院は初めてです。

ICU担当の若いナースが術後の説明のために訪室してきました。

麻酔からの覚醒を説明中に、話に変な方向へ行ってしまう、「麻酔から覚めないこともあります。死ぬことはないと思いますが、植物人間になることはあります。そうなったら訴えてもらってかまいません」などと言っています。

患者さんがどんどん不安になるのが、隣で聞いていて分かりました。
ナースが退室してから私がフォローしておきました。

「 A 」

そう言ってあげると、ずいぶん不安が薄らいだようでした。

いずれも、若い医療スタッフが未熟だった例です。

どちらももうそはついていませんが、患者さんの心に対する配慮が欠けています。

求められているのは、本当のことを、無用の不安を与えることなくどう伝えるかという医療スタッフの心と対話術ではないでしょうか。B

稲月明著「僕はガンと共に生きるために医者になった」より 一部省略

設問1 「 A 」には著者が同室の患者さんに語った言葉が記されていました。

この状況にふさわしい、あなたが考える「フォロー」の言葉を書きなさい。注意点：内容の説明ではなく、状況と話し相手を考慮して、適切と思われる実際の話言葉として書くこと。1文にまとめず、必ず複数の文にすること。

設問2 下線 B の内容について、あなたが臨床講義・実習や病院見学で見たり聞いたりした「本当のことを、無用の不安を与えることなく伝える方法」の例を一つあげ、わかりやすく説明しなさい。注意点：医学部に入学したばかりの学生に判るように、どのような状況で、どのように工夫した方法であったかをまとめること。

